

DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第18号 (2006/12)

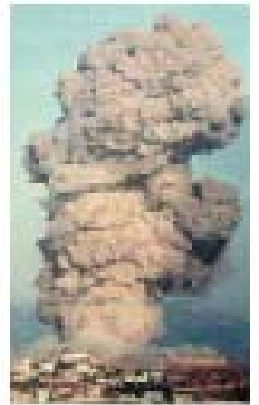
-----[はじめに]-----

英国のウラニウム兵器研究者ダイ・ウィリアムズ氏の論文「UN priorities for investigating uranium and other suspected illegal weapons in the Israel / Lebanon conflict」の訳文を連続掲載します。

ダイ・ウィリアムズ氏は一般に知られる劣化ウラン弾以外の、爆弾やミサイルなどにも、貫通弾やパラシュートなどとしてウラニウム部品が使用されている可能性を世界で初めて指摘した人です。特にレイセオン社などの特許情報をもとにした分析は、軍や否定派も否定しきれないものです。この論文はイスラエル軍に米国製の爆弾やミサイルが大量に供給され、かつイスラエル自身もウラン兵器を開発していると思われることから、イラクで起きた広範囲で重大なウラニウム汚染が、パレスチナやレバノンにも広がっている可能性を警告する重要なものです。

イスラエルとレバノンの紛争における、国連が優先調査すべきウラニウムおよびその他の非合法兵器の推定される使用

ダイ・ウィリアムズ 独立研究者 英国



要約

2006年8月11日、国連人権理事会（HRC）などの複数の組織が要請したのは、イスラエルとレバノンの武力紛争において、国際法上違法な兵器と疑われるものや、その他の戦争犯罪に関する国連調査が行われることである。

炭化した死体および巨大な火の玉が示す、イスラエル軍（IDF）がウラニウム弾頭を使うバンカーバスターなどの無差別殺りく兵器を使った可能性があることである。

これら疑わしい兵器とその危険性を記述する。

法科学的調査報告のための手順、およびレバノンや国際人員を保護するために優先すべきことを勧告する。

環境放射能調査は、レバノンや隣接する国において緊急重要事項である。

バルカン、アフガニスタンおよびイラクにおける国連の紛争後評価は長期間遅らされ、各種爆弾やミサイルの目標とされたものに対するウラニウ

ム分析は妨害された。

しかしながら空気中のウラニウム粉塵量の増大が、例えばハンガリーや英国などの国々で観測されている。

レバノンでは迅速で効果的な科学調査を保証し、国連および他のいかなる機関の環境調査についても、遅延や妨害を目的とした活動を阻止するために、国際的な支援が必要とされる。

1. 状況

ジュネーブの国連人権理事会は第二回特別会期において「イスラエル軍の作戦によって引き起こされたレバノンの人権上の重大な状況」に関する決議案を議論した。

項目6には以下の提案が含まれる。

緊急かつ適切な人権特別調査員と国際人道法の専門家で構成するハイレベルの調査委員会を緊急

に派遣することを決定し、

- a) レバノンでの市民に対するイスラエルによる組織的な目標設定および殺害を調査し
- b) イスラエルにより使用された兵器の種類と国際法上の合法性を調査し、そして
- c) 人間の生命、財産、重要な社会基盤および環境に対して、イスラエルの攻撃の程度および有害な影響を算定すること。

決議は賛成27反対11で可決された。

批判としては、例えばイスラエルによって犯された疑いのある戦争犯罪だけを取り上げており偏っているというものがあつた。(訳注：日本も反対に回った際の演説では、同様な反対理由を述べている)

アムネスティー・インターナショナルは人権評議会に「国連事務総長は、レバノンおよびイスラエルでの現在の戦争の全当事者について包括的で、適宜の、独立した、公正で、そして専門家による国際法違反の調査を確立することを要請するよう」求めた。

ヒューマン・ライツ・ウォッチはこれまでの武力紛争の調査を反映し「評議会はイスラエルおよびヒズボラー両方による無差別殺りく兵器の使用による文民への国際法違反について、双方の当事者による広範囲な記録の調査を考慮に入れること」を要請した。

市民にとって周知の事実となっているか、または推測している戦争犯罪の調査は、トラウマとなるような衝撃を与えられた双方の国の共同体には欠かせない。

けれどもイスラエル軍が違法兵器を使用しているのではないかという疑惑が起きたのは、異常な爆発、最近ガザでイスラエル軍による対人兵器によって起こされたレバノンの異様な、あるいは極度の傷害および治療ができない負傷の報告である。

大きな懸念は、イスラエルが使用する大型誘導爆弾とミサイルの多くは、米国製であるということだ。

これらの「バンカー・バスター」の弾頭は、バルカン、アフガニスタンおよびイラクにおける近年の武力衝突で、広範囲にわたるウラニウム汚染をもたらしたと疑われている。

これまでの攻撃のあいだに、500発にもものぼる誘導兵器が米国により供給された。

結果として、2003年4月からのイラクと同

様に、レバノンは紛争後の健康および環境への危機に直面することになる。

2003年4月10日付イラクにおける国連ウラニウム調査に関する私の報告の主要部分を参照のこと。

D. Williams, Eos, 10 April 2003. At: www.eoslifework.co.uk/pdfs/UNiraqissues.pdf

2. 関係グループへの説明

以下の人々のための注意事項

- ・ 軍人、医療従事者、救援関係者、建設関係者および環境調査研究者、さらに政府当局者を含むレバノン市民。
- ・ レバノン国連人員支援チーム (OCHA) であり、平和維持軍 (UNIFIL)、国連人権理事会調査委員会、UNEP環境監査チームおよび世界保健機構健康管理チームを含む。また、フランス、イタリアその他の国連加盟国により国連の活動としてレバノンに直接派遣される人々。
- ・ その他の国際支援団体や人権団体や、報道関係者であり、例えばICRC、HRWなど人員をレバノン (あるいはその他の軍事作戦において米国が誘導兵器を使ったアフガニスタンおよびイラクなどのような地域) に派遣する団体。
- ・ あるいはイスラエル軍により爆撃目標地域とされた地域からの難民や、イスラエル、ヨルダン、シリアなどの隣接国の健康や環境団体。

NATO軍は完全に米国とイスラエルの兵器系統に認識しているはずである、しかし新しい弾頭およびその環境影響は「軍事機密」とされている。本隊派遣前の先遣隊として8月19日にレバノンに到着したUNIFILのフランス偵察部隊は、放射線を分析する環境専門家を擁していると思われる。

3. 目標にされた市民共同体

市民共同体を目標にすることは一使用される兵器の種類にかかわらずジュネーブ条約第1議定書第35項に違反する。この問題は国連職員、人権擁護運動グループおよび他のオブザーバーによって広く認識されている。位置の証拠および民間人の犠牲者は、調査団によって明白かつ容易に立証可能である。

故意に通常兵器で市民を狙うという普遍的な問題は（決議草案の項目 6a）イスラエルおよびレバノン両方に関係する共同体の深刻な、そして継続中の懸念である。理想的には、国連調査報告が公正とされるためには、イスラエル軍とヒズボラー双方の民間地域への攻撃を調査するべきである。

「均衡性」という法律上の原則が国際人権弁護士によって評価される。実際的な意味として、国連調査においては、爆弾によってターゲットにされた場所の数、双方が使用したミサイルおよび他の軍用品そして死傷者の数に応じ派遣する必要があるだろう。

ウラニウムを含む大型爆弾やミサイルをイスラエル軍が使っていたことが証明された場合は、目標とされた市民よりもはるかに多くの人々に影響する可能性がある。そのような兵器による攻撃は、風下地域に無差別かつ大規模な汚染地帯を作であろう。爆弾およびミサイル攻撃の目標となった周辺や風下地帯で、空気や土壌および水についてウラニウムあるいは他の放射性物質の粉塵および放射線レベルを、国連オブザーバーが監視する必要に気が付かない場合は、この危険は見落とされる。

以前、国連環境計画（UNEP）が行ったウラニウム汚染調査では、米国と英国の軍隊によって使用が確認された兵器（たとえば対戦車弾）は、彼らが確認した目標にきちんと限定されていた。けれどもバルカン戦争の期間に観測されているのは、ギリシャにおいて空気中を拡散する放射性物質の重大な増加と、ハンガリーでの空気中を拡散するウラニウムダストである。アフガニスタンおよびイラクで米国による爆撃の期間中に、英国におけるウラニウムダストの重大な増加が観測された。8 ページの図 1 と 2 を参照のこと。（注：分割掲載のため「P 8 図 1 と 2」は次号に掲載）

民間住居地域に対するヒズボラーの攻撃では、それによる放射性兵器の使用をイスラエルは報告しなかった。しかし風で運ばれる放射能がレバノンの攻撃目標からイスラエル北部に拡散した可能性がある。8 月 2 2 日に「地球の友・中東」が書類「イスラエルおよびレバノンの共有された環境に関する戦争の影響」の中で、UNEP が調査のためにチームを送るべきであると要請した。イスラエル軍の爆撃による石油貯蔵場所が、地中海沿岸にもたらした非常に明白な石油汚染よりも見えないウ

ラニウムダスト汚染ははるかに遠くに拡散した可能性がある。

4. 既知および推測される違法兵器の使用

大量破壊兵器および無差別に被害を及ぼす兵器は、ジュネーブ条約第一追加議定書の第 3 5、5 5 条によって禁止されている。同様に非人道的兵器が C C W（特定通常兵器）あるいは非人道的兵器協定（1 9 8 0 年）によって禁止されている。

中東からの最近の報告によれば、通常兵器（例えば高性能爆薬の爆発 / 破砕爆弾、砲弾およびミサイル）のほかにも、イスラエル軍は違法な要素を含むと推測される、以下のシステムを使っている可能性があることを示す。これらは有毒性、焼夷性、放射性を有し、もしくは損傷効果を強化している可能性がある。

a) 例え A P A M 戦車砲弾あるいはクラスタ爆弾のような、潜在的そして広範的に使われる地雷や子爆弾の一方か双方の効果を狙って使われる対人用兵器。イスラエル軍の対人兵器で含んでいるのは、犠牲者の体内で燃焼するプラスチック製弾、レントゲン写真でも見つけられないかみそり状の破片や自然性の弾丸の破片、医学的治療が出来ないように設計されているもの。

b) H E A T 兵器—多くは成形炸薬弾頭を持った高性能爆薬の対戦車兵器である。地上発射スパイク（S P I K E）対戦車ミサイルや空中発射ミサイルなど。例えヘルファイア、マーベリック・ミサイルを含む。これらは、軍のみならず民間の車に対しても、しばしば使われる。ヒズボラーも同様にイスラエル軍戦車に対し米国製 T O W 対戦車ミサイルを使ったことがある。

c) 装甲貫通体—洋上からの 2 0 ミリファランクスシステム、アパッチヘリコプターからの 2 5 ミリ、さらに対戦車戦用 1 0 5 & 1 2 0 ミリ対戦車砲弾の貫通体。

d) 特殊兵器、例え B L U 1 0 7 デュランダ滑走路破壊ミサイル（硬目標爆破貫通体）および黒鉛製の電力システム破壊兵器。

e) 硬目標破壊兵器—小型ないし中間サイズの誘導兵器でバンカー・バスターと見られるもの。これらは誘導ミサイル（例え A G M 1 4 2 H a v N a p、8 0 0 ポンド、A G M 1 3 0 等の

2000ポンド爆弾) および誘導爆弾 (例えばGBU24の2000ポンド、AUP116やGBU28の2トンのAUP113弾頭) を含む。

f) サーマバリック (高温高圧を発生させる兵器) 燃料気化爆弾、反応性に富む金属 (ウラニウム?) および他の新しい爆発物 (NE) を使う弾頭、例えば2000ポンドのBLU-118/B弾頭、ヘルファイアAGM114Nミサイルおよびイラクの戦場で使用試験を行っている歩兵用SMAW-NE。

数人のスペインとイタリアの兵士が、コソボの激しく爆撃された地域で活動している数カ月後に死んだ。

しかしながら「バルカンにおける劣化ウラニウム標的に関する国連環境計画 (UNEP) 調査 (2001)」では、放射能汚染は数メートルの範囲に限定されているとしていた。

UNEPの調査は16カ月も遅らされた。

その場所はNATOによってすでに管理下に置かれており、UNEP検査官が現地入りを許され



Incendiary bunker buster bombs or missiles, Baghdad, March 2003. BBC/AFP.



Incendiary bunker buster bombs in Lebanon, August 2006. BBC(14); Indep.



g) イスラエルによって開発されたその他の非在来型の兵器、カーペット・ランチャー燃料気化あるいは化学的攻撃兵器およびMTHEL (可搬型戦術高エネルギー・レーザー) も含め最近の紛争で使われた可能性がある。

両方とも陸上兵器システムである。

5. ウラニウム兵器の推測される使用および拡散

1999年4月のベオグラード爆撃のすぐ後で、ハンガリーにおいてウラニウム粉塵量が大きく増加し、北ギリシャで放射能が増加したという報告があった。

る前に除染されていた。

確認されていた劣化ウラン弾の標的からの調査で、驚くほど遠く離れた場所にもウラン粉塵が風で運ばれて存在していることが、新世代誘導兵器の開発からあばかれた。これらの新しい兵器は秘密であり、爆弾やミサイルの高密度の弾頭であり、地下深部の施設、強化コンクリートの構造物や戦車を貫通させるために使う。これにはタングステンかウラニウム合金を使う。強力な焼夷性効果が必要とされる場所では、ウラニウム合金 (劣化あるいは非劣化) は明白な軍事的選択である。人体や環境への悪影響がより考慮されるようになるまでの間は。これらは2つの報告は次のレポートに記載されている。劣化ウラニウム兵器2001

- 2002 - アフガニスタンにおける悪夢の謎の金属 2002年1月139ページ。オンラインでは<http://www.eoslifework.co.uk/pdfs/DU012v12.pdf> で読める。

発地点の詳細な分析、設計、戦術的な目的、さらに既知であり推測されるウラニウム兵器の潜在的な影響。

それは政治的、科学的、軍事情報源、拡散のさらなる調査および危険に対する結論を含む。

ウラニウム兵器2001-2003-アフガニスタンとイラクのウラニウム兵器の危険性。2002年10月、44ページ。オンラインで<http://www.eoslifework.co.uk/pdfs/u25.pdf> で読める。紛争後の健康問題と多発する疾患に関する最初の報告およびアフガン市民の劣化ウラニウム汚染に関する証拠をこれは更新した。いかなる種類のウラニウム兵器（劣化あるいは非劣化を問わず）であれ、その使用と危険性に関する劣化ウラニウム研究を拡大する必要性を明白にした。2003年の世界ウラニウム兵器国際会議（ハンブルグ）で確認された。付録には硬目標弾頭（2000ポンドと1000ポンド）が、タングステンおよび劣化ウラニウムの選択肢を明示しているレイシオンとロッキード・マーティンによって登録された米国特許を含む。

これらの警告は、英国政府と国連安全保障理事会の理事国およびブリュッセルのEU議会事務局に、イラクに対し予想される攻撃で使われるであろうという警告と同時に送られた。EU議会は、2003年2月12日の決議でこれらの警告を取り入れ、地雷と劣化ウラニウム弾の開発および使用に関してもモラトリアムを要求しており、「ほかのウラニウム弾頭についても」の中に含まれる。

2003年3月から4月の米国によるイラクに対する「驚愕と畏怖」作戦の爆撃では、新世代の硬目標弾頭およびミサイルについての、明白な証拠を初めて提供した。明るく白い閃光、燃えている金属破片（これはリンではない）の巨大な火の玉や後炎は新世代弾頭の特徴を示す。これらの特徴は、「ウラニウム弾頭」(Liolios 1999)の報告に示された爆発温度5000度、および激しい閃光と熱で死傷者が炭化したことに整合性がある。2006年のバイルート（右）と2003年のバグダッド（左）を2つの写真で比較せよ。（訳注：前ページの写真を参照のこと）

ニュースクリップ

ポロニウム殺人と核兵器と劣化ウラン兵器の関係

アレクサンドル・リトビネンコ氏が殺された。そのとき使われたのは放射性物質ポロニウムであるという。このポロニウムと核兵器、そして劣化ウラン兵器の間にはとても強い関係がある。

ポロニウムとは

原子番号84、アルファ線を出す放射性同位元素、このポロニウム210が殺人の道具として使われたという。それが本当であれば、背筋が寒くなるような事件である。

ポロニウムとは、天然にも存在する放射性物質であるが、特にポロニウム210は核兵器の起爆剤（イニシエーター）としても使用されるため、極めて機微な戦略物資である。

このような放射性物質がそこらにばらまかれたとしたら、恐ろしいことである。

1グラムあたりのポロニウム210は、ウラニウム238の約120億倍、危険なラジウム226の4200倍、プルトニウム239の約64000倍のアルファ線を出す。その他の放射線はほとんど出さない。（アルファ線に対しわずか10万分の1）そのうえアルファ崩壊後は鉛206という安定同位体になって、その後放は放射線を出さない。アルファ線のみを使いたい装置（これには原爆の起爆装置も含む）にはうってつけである。また、アルファ線自体は紙一枚で遮蔽できるため、ガンマ線検出器などで外からチェックしても発見できないという特徴もある。

ポロニウム210は1グラムあたり約140ワットの熱エネルギーも生ずるので、これを使った電池も存在した。たとえば人工衛星や月に設置した観測装置にはこれが使われていた。この熱量は、ポロニウム210自身を加熱するので、気化する温度（摂氏約960度）以上に上昇し気体となって飛んでしまうという話もあるくらいだ。

このようなポロニウムは、ウランの放射性壊変により生ずる。

ウラン238から始まる「ウラニウム系列」と

呼ばれる崩壊系列上で、ラドン222のアルファ崩壊で生ずるのがポロニウム218である。

これがさらに崩壊を繰り返す過程でポロニウム214、ポロニウム210が生ずるのである。

ラドンは常温では気体状物質であるから、環境中の何処にでも存在する。そのためポロニウムも環境中の何処にでも存在するが、これは極めて希薄である。

しかしこれが高濃度に集積しているところがある。それがウラン残土であり、ピッチブレンド（閃ウラン鉱）などのウラニウム鉱石や鉱滓だ。

人形峠の周辺の鳥取県湯梨浜町方面地区のウラン残土問題というのは、ウラニウム由来の各種放射性物質による複合的な汚染問題であった。つまりウラン残土のようなウラニウム系放射性廃棄物がたくさんあれば周辺環境中の放射性物質の量は必然的に増大するのである。

さて、ウラン鉱石をも上回るとんでもない密度で存在するウラニウム廃棄物があることに気づかれるだろう。そう、劣化ウラン兵器である。

使用された地域に広く拡散したとはいえ、廃弾はウランの固まりそのものである。

100%のウラン238は、1グラムあたり1.26万ベクレルの放射線を出す。それがトリウムやネプツニウムやポロニウム、ラドンなどの放射性物質に変化をする。そのたびにそれぞれの放射性物質は1.26万ベクレルの放射線を出す。この状態を「放射平衡」という。10000年以上も経ると、もともと100%近くがウラニウム238（つまり劣化ウラン兵器）であったものが14種類の放射性物質の混合物となり、合計17.64万ベクレルのアルファ、ベータ、ガンマ線を出す。

天然に存在するウラニウムも当然そうになっているがそれはほとんど地中の話である。気体状物質ラドンも、岩石中に封じ込められていれば、私たち生物圏にはほとんど影響を与えないが、それを掘り出し、環境中に拡散をさせたのが20世紀以降の人類である。

核兵器、核燃料、劣化ウラン兵器、ウラニウムを出発点とするこれら放射性物質からなる「製品」に、私たちは未来にわたり脅かされるのである。

ポロニウム体内被曝

ポロニウム210は放射性同位元素としても、

危険な物質である。

この放射性強度は致死量が47ナノグラム（1億分の4.7グラム）程度である。この量で半数の人間が数日以内に死亡する「4シーベルト」という放射線量被曝になる。

これは1999年9月30日に発生したJCO臨界被曝事故で死亡した人の被曝量の約半分に相当する。

ポロニウム210の大量被曝による影響は、その放射線がアルファ線のみであるということから、セシウムやストロンチウムなどとは異なるものとなる。

アルファ線は体内組織内では数十マイクロンしか飛ばない。従って体に入った直後ではまず影響は出ないが、それが消化器系統を通じて肝臓や腎臓に到達するまでに、その途中の組織細胞を急激に破壊する。

11月1日に体調不良を訴えたりトビネンコ氏は、23日にJCOの犠牲者と同じ「多臓器不全」により死亡した。

どのような治療をしていたのかわからないが、半数致死量を遙かに上回る大量のポロニウム210の摂取があったことは確かである。

大量の中性子線の全身被曝により全身の組織細胞が破壊されたJCOの犠牲者よりもリトビネンコ氏のほうが局所的な被曝であったと思われるので、最後まで意識もあり話も出来たのであろう。それはまたとても残酷な一面であった。

誰がこんなものを殺人兵器に使ったのか、疑われているようにロシアの作業員が行った暗殺なのか、10月7日に自宅アパートで射殺されたアンナ・ポリトコフスカヤさんのように、ロシアによるチェチェン武力攻撃への批判的立場が原因だったとするならば、ロシアの巨大な暗部が原因だったことになる。

9.11事件の米国と同様、チェチェン問題とロシアは一般的に報道されているような「チェチェン武装勢力対ロシア」あるいは「チェチェン武装勢力へのロシア対テロ戦争」といった単純なものではない。

ポロニウムと核兵器

ポロニウムはラジウムなどよりも強いアルファ線を出す。それ以外の放射線をほとんど出さない。それだけではなく、もう一つの理由で嚴重に

管理されなければならない危険な物質である。

核兵器、特に初期型のプルトニウムを使う戦術核で、もっとも大きな課題は爆発の精度を出すことである。原爆の原理そのものはそう難しくはなくても、100万分の1秒で全ての核分裂反応が終わる核兵器では、もっとも重要な爆発精度を出す決め手は、プルトニウムが爆縮されるときに、どうやって良いタイミングで中性子を当てるかというところにかかってくる。プルトニウム239の純度とともに、このタイミングの取り方を間違えると核兵器は設計威力をだすことができない。

高性能爆薬で圧縮をしている時、もっとも圧縮がかかった瞬間に十数個の中性子をその爆縮中のプルトニウムに照射する。その中性子源にポロニウムを使うのだ。ナガサキに投下されたファットマンもこれを使ったとされる。

米英仏露中の5カ国は、すでにもっと性能が優れている中性子源を開発しているようだが、核武装後発国にとっては今も重要な物質である。

ベリリウムはアルファ線が当たると中性子を出すという性質がある。そのベリリウムとポロニウムを金やアルミでメッキする。高性能爆薬の熱と圧力で金やアルミが蒸発し、遮蔽されていたアルファ線がベリリウムを叩き、中性子が放出され、プルトニウムの臨界超過が生じ、核分裂の連鎖反応、即ち核爆発が起きるのである。

そのようなポロニウム210は高度な軍需物資であると同時に、極めて機微な核兵器材料である。同時にベリリウムも戦略物資であり、厳しく規制されていなければならない。

リトビネンコ氏暗殺事件の背景は、核兵器転用物質か、あるいは核兵器そのものの密輸事件との関係が強く疑われる。

ポロニウム210という物質は、人を暗殺するために持ち歩くような物質ではあり得ない。半減期138日という短さは、数ヶ月で殺戮兵器として使い物にならないことを意味する。この物質を原子炉や中性子照射施設で生産するとなると、莫大な費用がかかることから考えても、人を抹殺する「毒薬」にしては、恐ろしく費用対効果も悪く、取り扱いも難しい。一説ではリトビネンコ氏暗殺に使われた量のポロニウム210を製造するには、約46億円もの費用がかかるのだという。暗殺のためだけに、そんなコストをかけるものはいない。

劣化ウラン研究会 山崎久隆

ポイズン・ダスト

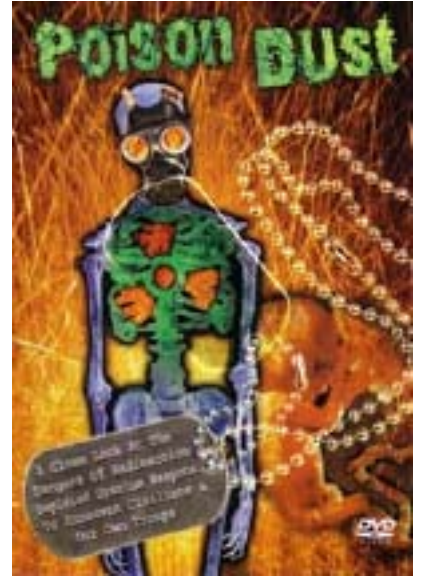
むしばまれる(イラクの)人々。汚染される大地。イラク戦争と劣化ウラン。イラクで何が起こったか。

日本語版

販売開始のお知らせ

劣化ウラン研究会

劣化ウラン研究会では、先のイラク戦争を中心とした劣化ウラン被害告発ビデオ/DVD「ポイズン・ダスト」(オリジナルの著作・製作は米国のNGOインターナショナル・アクション・センター)の日本語版製作を計画し、製作をビデオプレスにご協力もいただき、2006年5月から販売を続けているところです。



この原作は、インターナショナル・アクションセンター(国際行動センター・創立者は元アメリカ合衆国司法長官ラムゼー・クラーク)が作成したDVD「Poison DUsT」(上映時間約90分)ですが、皆様の活動に利用していただくために、劣化ウラン被害関連に絞って約30分に再構成し、日本語の字幕をつけ、せりふを日本語にふきかえました。

ご注文は劣化ウラン研究会(たんぼぼ舎気付け)までどうぞ。

なお、代金の送金先は以下の通りです。通信欄に次のように記載してください。

送金先：郵便振替口座 0010-2-155130

送金口座名称：劣化ウラン研究会

<通信欄記載事項>

- ・「ポイズン・ダスト注文」と明記ください。
- ・ビデオ(3500円) 本数
- ・DVD(3500円) 本数
- ・送付先住所
- ・連絡用電話/FAX/電子メールアドレス

本の紹介

世界は変えられる

J C J 日本ジャーナリスト会議

市民メディア賞受賞

TUPが伝えるイラク戦争の「真実」と「非戦」

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳者たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 240 ページ

ISBN4-8228-0480-1

世界は変えられる II

—戦争の被害者って? 加害者って?—

TUP: Translators United for Peace

(平和をめざす翻訳家たち)

定価 1800 円 + 税 四六判 上製 288 ページ

ISBN4-8228-0489-5

イラク占領と核汚染

森住 卓 = 写真・文

A5・160 ページ(写真96 ページ/文章64 ページ)

2005 年 8 月 6 日 発行

本体価格 2000 円 ISBN4-87498-347-2

米英軍のイラク攻撃は、イラクの人々に何を
もたらしたのか!? イラク戦争開戦前夜から占
領下を含め通算八回、イラク各地を取材。

軍事占領と劣化ウラン弾、イエローケーキな
などによる放射能に苦しむ人々の姿を、鮮烈な写
真と文章で伝えるフォトドキュメント!

<http://www.morizumi-pj.com/>

「放射能兵器・劣化ウラン —核の戦場・ウラン汚染地帯」

劣化ウラン研究会編、技術と人間社発行

2003年3月 定価2500円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-16

TEL:03-3260-9321

FAX:03-3260-9320

「ボクは死ぬんだ。死んでしまうのだ。」イラクの小
児病棟では連日、血を吐きながら子どもたちが死ん
でゆく。劣化ウランは史上最悪の大量殺りく兵器で
ある。この兵器を使用しているかぎり、人類だけで
なく、地球上の生きとし生けるものに未来はない!

<主要目次>

第1章 危険な劣化ウラン弾

第2章 劣化ウランの軍事転用

第3章 核燃料サイクルと劣化ウラン

第4章 身近にあらわれる劣化ウラン

第5章 劣化ウランおよび劣化ウラン兵器
廃絶運動

<著者紹介> (50音順)

伊藤政子 アラブの子どもとなかよくする
会代表

新倉修 青山学院大学法学部教授

野村修身 電磁波問題市民研究会代表

藤田祐幸 慶応義塾大学物理学教室助教授

森住卓 フォトジャーナリスト

矢ヶ崎克馬 琉球大学理学部教授

山崎久隆 劣化ウラン研究会代表

取り扱いはたんぼぼ舎まで

劣化ウラン兵器を

造らせない 持たせない 使わせない

劣化ウラン研究会

〒161-0061 東京都千代田区三崎町2-6-2

ダイナミックビル5F たんぼぼ舎内

TEL: 03-3238-9035 (たんぼぼ舎)

E-mail: zt4h-ymsk@asahi-net.or.jp (山崎) URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法: 通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、

年会費(個人2000円・団体4000円)を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会